

2026年新春 新年のご挨拶

和歌山県遊技業協同組合
理事長 金 貴 如

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様方には、ご健勝で輝かしい2026年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また平素から、組合の活動に対し、ご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。新年を迎え、私も気を引き締め、業界の発展に向け、精進する所存でございます。

昨年は、大阪・関西万博の開催やインバウンドの回復をはじめとした様々な社会活動がコロナ禍以前の活気を取り戻した1年となりました。私たち遊技業界も社会情勢の変化や多様化する価値観に対応しながら、「健全で魅力ある娯楽としてどうあるべきか」をあらためて問い直す1年であったと思います。

遊技業界を取り巻く環境は、長期的な参加人口の減少や店舗数の縮小など、依然として厳しい状況にあります。県内のホール数は、昨年3ホールが廃業し、現在52ホールとなっています。5年前は71ホールでしたので27%の減少と大変厳しい状況となっています。その一方でスマート遊技機の普及が進み、新たなファン層へのアプローチが広がり始めるなど、前向きな兆しも見えています。こうした流れを一過性のものにせず、確かな成長へとつなげていくためには、地域に根差したホール営業の在り方を見つめ直し、業界の存在意義の構築と発展に向けて着実に歩みを進めていくことが重要です。

時代と共に生活様式が変化し、余暇の過ごし方が多様化している中だからこそ、「パチンコ・パチスロが持つ魅力」をしっかりと引き出し、選ばれる娯楽として進化を続けていきたいと思っております。

昨年末から風営適正化法の電子申請が政府のe-Gov(イーガブ)を使用してできるようになったほか、本年2月からは、遊技機の入替申請にかかるホールへの実地調査の一部省略が実施される予定となっておりますが、遊技業界としては、不正改造事犯の根絶に向けた取組を引き続き推進していく必要があります。

また、昨年5月に公表された「広告宣伝ガイドライン(第3版)」を踏まえ、適切な広告宣伝に取り組んでいただきたいと思います。適正な広告宣伝は業界の社会的信頼を高めるための重要な取り組みです。ガイドラインを遵守しつつ、パチンコ・パチスロの魅力をもっと正しく伝えていただくとともに、お客様に安心して楽しんでいただける遊技環境の構築やパチンコ・パチスロ依存問題対策の推進など大きな課題が多く控えております。こうした

変化に対し、組合員皆様が柔軟に対応できるよう、協議を進めてまいります。

次に、パチンコ・パチスロ産業21世紀会では、「遊びの力で、心を元気に。」をパーパスとして掲げ、遊技業界の存在意義の実現を目指しています。

和遊協では、昨年、ホールの存在意義を示すひとつとして「災害時における支援及び協力に関する協定」を締結するとともに災害訓練を実施しました。今後も市民に「この街にパチンコ・パチスロホールがあってよかった」と実感してもらえるよう、地域に根差した市民に信頼されるホール営業の実現に努めてまいります。

本年も、私たち遊技業界にとりましては、厳しい情勢が続きます。

今後も、目の前の問題を一つひとつ解決していくため、業界が一致団結してこの厳しい情勢を乗り越えていくよう組合運営に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたりまして、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。